
「第4号議案」2023年度活動方針(案)

● 2023年度活動方針(案)

同友会理念

(1) 中小企業家同友会 3つの目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して、企業の自主的近代化と強靱（じん）な経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、経済・社会・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

(2) 自主・民主・連帯の精神

(3) 国民や地域と共に歩む中小企業をめざす

北海道中小企業家同友会 基本方針

<企業づくり>

1. 経営者と社員が共に学びを深め、激変する経営環境に対応できる企業体質を築こう
2. 経営指針の成文化と実践に取り組み、人間尊重経営の実践に取り組みよう

<経営環境の改善と地域づくり>

1. 中小企業憲章の精神を広め、全ての自治体に中小企業振興基本条例を制定しよう
2. 会内外の連携を強め、地域経済を活性化し、持続可能な地域をつくらう

<同友会づくり>

1. 同友会運動の実践を深め、次世代への円滑な継承をめざそう
2. 会員組織率10%をめざし、組織強化と財政基盤の充実に取り組みよう
3. 同友会の原点に立ち戻り、活動をみつめ直そう

2023年度 活動の力点 (案)

スローガン案 同友会運動の原点に立ち戻り、会員同士の顔の見える活動を推し進めよう

1. 経営指針を作成・見直し、「人を生かす経営」の総合実践を通して、強靱な企業づくりに取り組みよう
2. 地域課題に目をむけ、中小企業が力を発揮し、豊かな地域づくりを広げよう
3. 2025年度6,000名会員の早期回復をめざし、あてにされる同友会づくりをすすめよう

企業づくり

1. 経営指針の成文化・見直しで、自社の未来を確かなものに

同友会では、自社の行く先を明確にするため、すべての企業に経営指針（経営理念・経営方針・経営計画）の成文化を呼び掛けています。昨今は、原材料やエネルギーの高騰に加え、人材不足に一層拍車がかかり、厳しい経営環境が続くと予想されています。この厳しい状況を乗りきるこれからの自社の方向性を社員や取引先に示すことが望まれます。また、成文化していても、情勢は絶えず変化しますので、常に見直すことが重要です。

成文化や見直しには、昨秋中同協が発刊した『企業変革支援プログラム Ver.2』が有用です。このプログラムを行うことで、自社の実態を自己診断し、経営課題を明確にして対応すべき方向性を導き出すことができ、経営指針にその方向性を盛り込むことができます。ぜひ社員を巻き込んでプログラムを社内実践しましょう。

様々な機会を通して経営指針の重要性を訴えながら、これから成文化に取り組むには『経営指針成文化の手引き』を活用し、経営指針研究会に参加しともに成文化をめざす会員同士の学びあい、気づきあいを機会に自社のこれからの明確にしていましょ。

2. 自社と地域を担う人材を採用し、社員が成長できる「人を生かす経営」を着実にすすめよう

近年は、理念や社会への貢献に加え、自分自身の役立ち感や成長を感じられる企業で働きたいとの希望が高まっています。そのためには、社員が自主性や創造力を発揮できる企業づくりが重要です。と同時に、時間外労働の短縮や就業規則の整備など社員が安心して働ける職場環境づくりも望まれています。まさに、「人を生かす経営」の理解と実践がカギとなります。その基本となる「労



苫小牧支部のサポートを受け第6期経営指針研究生3名が修了
(西胆振支部)

使見解」を学び、経営者と社員がともに学び、共に成長していく共有環境を社内に確立し、経営指針に労働環境の整備も位置づけましょう。自社の維持発展にはパートナーである社員の力が欠かせませんので、社員を採用できる企業づくりを進めてまいりましょう。

また、企業同様社員の生活環境も物価の上昇等によって厳しい状況を迎えています。労使双方で力を合わせて経営努力に一層取り組み、価格転嫁に努めて賃上げなど処遇改善のできる体質の企業をめざしてまいりましょう。

3. 経営課題にしっかりと把握・対応し、企業体質の強化に取り組もう

コロナ以降、経済活動や生活スタイルなどが大きく変わり、加えて企業物価の高騰によって、経営革新が待たなしとなっています。一方、コロナによってデジタル化が急進し、AIやIoTなどのDXは自社を変える新たなチャンスとなり、また、近年注目される脱炭素やSDGsなどのグリーン分野は中小企業の新たな市場とも言えます。経営指針の見直しとともに全社一丸で改めて自社の強みや可能性を探り、既存事業の強化や新事業・新市場に活路を見出してまいりましょう。

また、新商品の開発や新分野への進出は中小企業単独では難しい場合もありますが、一社単独では難しいビジネスも、他社と協力し合うことで実現性が高まります。



「人を生かす経営研究セミナー」グループ討論



新入社員フォローアップ研修会(オホーツク支部)

さらには、昨年連携協定を結んだ北海道中小企業総合支援センターは、補助金・助成金などの施策メニューのほか、専門家の派遣などで企業活動をバックアップしており、その他の支援機関も活用して新たな可能性を広げてまいります。

4. 事業承継にむけた課題を整理し、いまから準備をすすめよう

経営者の高齢化や後継者不足がクローズアップされています。地域から中小企業がなくなることは、地域の雇用や経済基盤が失われるため、その影響は計り知れません。

しかし、経営者が心血を注いで作り上げてきた歴史は



自社製品を手に苫小牧工業高校の生徒に働く意義を伝える
(苫小牧支部)



ビジネスマッチング例会(道北あさひかわ支部)



「つなげる」事業承継計画書作成講座第3講

一朝一夕には譲り渡せるものではありません。顧客はもとより自社で培ってきた技術、誇りとやりがいをもって働く社員もいます。経営指針の成文化と実践が、スムーズな事業承継の備えにもなります。

一度しかない事業承継を成功させるために、事業承継支援相談窓口「つなげる」を活用して事業承継の事例や事業承継の方法などを学び、また、北海道事業承継・引継ぎ支援センターなどの専門家にも力を借りて地道に取り組んでまいります。

経営環境の改善と地域づくり

1. 経済・社会構造の変化など地域の実態をとらえ、地域の諸団体とともに課題解決をめざそう

中小企業は地域に密着して事業を営んでいるため、地域の課題は即自社の課題と言えます。北海道では人口減少や高齢化、人手不足・人材不足、地域の疲弊が進んでいますが、中小企業は事業を通して社会的役割を果たす社会の公器でもありますので、地域に仕事と雇用を生み出すとともに地域に若者を残していくことが最重要課題です。自治体や関係機関などと協働して地域の実態を正しく把握し、地域資源や魅力を探り、地域と自社の将来展望を模索していきましょう。



ウイングベイ小樽を中心としたまちづくり構想から地域の未来を考える(しりべし・小樽支部)



酪農・畜産フォーラム(くしろ支部)

2. 中小企業振興基本条例の制定・見直しとその活用で、中小企業の力を発揮させて、豊かな地域づくりに取り組もう

中小企業が地域を支えている誇りと責任を明らかにし、地域とともに歩む存在として広く認識されるためには、中小企業振興基本条例の制定、または既存の条例の見直しが重要です。条例は①自治体の立場を明確にする、②地域の中小企業への理解を得る、③行政の姿勢の連続性を担保する、といった役割を持っています。中小企業の力を発揮させ、豊かな地域づくりのための条例制定・見直しと活用の目標を立て、計画的に取り組んでまいります。

さらに、「中小企業の日（7月20日）」や「中小企業魅力発信月間（7月）」に合わせて中小企業魅力発信セミナーを他の中小企業団体とともに取り組み、広く中小企業の存在意義や役割を知らしめてまいります。

3. 中小企業を取り巻く政策等にも目をむけ、中小企業にとって望ましい経営環境を発信しよう

インボイス制度や電子帳簿保存法など税制、本年4月からの時間外労働の割増賃金率の引き上げや最低賃金の上昇など雇用、また金融行政など政策の変更は中小企業の経営に大きな影響を及ぼします。法改正や施策の動きなどの学習を丁寧かつタイムリーに取り組んでまいります。また、それらの変更によってどのような影響があるかを同友会景況調査（DOR）やその他必要な調査に多くの会員に協力いただき、北海道経済部との懇談会や自治体、行政機関との交流の場を通じて訴えてまいります。また、会内では例会内容の検討や会活動に生かす資料として活用してまいります。

4. 平和な社会を願い、自然災害等へ備える

ロシアによるウクライナへの侵攻は依然大きな犠牲を生んでいます。地域の暮らしや働く人の命と尊厳を大切

にする同友会として、人生を豊かに、幸せに生きられる真に安心安全な、平和な世界を絶えず訴えてまいります。また、いつ起こるともわからない自然災害には、生活上もビジネス上も事前の準備や万一の場合に備えた具体的な取り組みをまとめたBCP（事業継続計画）が絶対重要です。継続的な見直しや訓練、未策定の場合は策定に早急に取り組ましましょう。

同友会づくり

1. 例会の充実をはかり、会員の「学びと実践」が広がる活動にとりくもう

同友会は中小企業家がお互いの悩みを率直に語り合い、そこから学んだことを自社で実践する会であり、学びあう場に自ら関わっていく自主性を大切にしています。その学び合いの場が「例会」であり、会員の生の経営体験報告を聞き、それを受けてのグループ討論が基本スタイルです。報告者との事前打ち合わせやグループ討論のテーマなど、ていねいな例会づくりを心掛け、悩みの解決や自社での実践につながる質の高い学びの場づくりを進めてまいります。

また、会合の企画や当日の準備、運営などは会員同士が理解しあい、交流が深まる機会でもありますので、会合以外の場面も活用しましょう。

2. 仲間づくりの輪を広げ、会員と地域にアテにされる同友会にしよう

「孤独な経営者をなくす」を設立趣旨に掲げ産声を上げた同友会ですが、依然経営の悩みや課題を一人で抱えている経営者がいます。同友会は同じ悩みを持つ経営者、課題を乗り越え新たな課題に立ち向かう経営者など、共に学び、共に切磋琢磨ができる場であり、明日への力がもらえる会です。一人でも多くの中小企業経営者に声をかけ、2025年度6,000名会員回復をめざして、2023年度



「インボイス制度セミナー」は担当社員も参加
（札幌支部経営厚生労働委員会 & 西・手稲地区会共催）



函館支部5月例会（グループ討論）

は「StepUp5850」として、同友会理念を地域に広げる 5,850名の仲間づくりをすすめてまいります。

また、新たに入会いただいた会員には、同友会のだいたいご味をいち早く感じていただくため、同友会の歴史や理念、活用のポイントなどを北海道同友会として整備し、オリエンテーションやガイダンスを通して理解を広げてまいります。

3. 役員と事務局を育成・強化し、次代への継承をすすめよう

役員・事務局の世代交代期を迎え、同友会運動と理念の継承は重要課題です。同友会役員は役員研修会など折に触れ同友会運動の歴史や理念を学び、同友会での学びと自社の企業実践を語る取り組みを強めてまいります。

また、新年度は新たな事務局体制となることから、事務局員の育成と役員との関係強化が一層重要になります。役員と事務局員との懇談会や会員訪問などの日常活動に共に取り組むと同時に、事務局員が会員の実践を学び、そして新たな活動や課題の提案ができるよう育成を図り、安心して働ける働き方改革や労働環境の見直しも進めてまいります。

4. 第38回全道経営者“共育”研究集会（旭川）を成功させよう

年に一度、全道会員が一堂に会して自社や地域での取



南空知支部3月移動例会（日本理化学工業美唄工場）



とかち支部とオホーツク支部の女性部会ランチ交流会 in とかち

り組みを学びあい、そして会員同士の交流の輪を広げるのが全道経営者“共育”研究集会、通称「道研」です。今年度は14年ぶりに道北あさひかわ支部が設営し旭川市で開催されます。全道の仲間と知り合い学びあう絶好の機会ですので、10月7日（土）のあさひかわ道研に積極的に参加しましょう。

また、中同協では全国総会や女性経営者全国交流会、青年経営者全国交流会、中小企業問題全国研究集会などを主催しています。全国の会員の優れた実践の学びや討論は、視野や気づきを広げる機会となります。ぜひ全国行事にも参加しましょう。

5. これからの北海道同友会を語り合おう

1969年の創立以来、北海道同友会は会員の経営指針づくりとその実践、社員との共育などを進めながら、その存在基盤でもある地域へのかかわりを強めてまいりました。経営環境、社会環境が大きく変化する中で、同友会も理念を礎に将来を見据えて組織や活動のあり方を見直していくことが求められます。

2023年度も、魅力ある活動や組織づくり、安定した財政体質、事務局体制など、これからの北海道同友会のあるべき方向性について考えてまいります。また、来る2029年の60周年に向けてのビジョンづくりもすすめてまいります。

むすび

今年度は、1983年に北海道で行われた中同協第15回定時総会にて「共に育ち合う土壌づくり」を同友会の社員教育理念とうたった「教育宣言」から40年、そして、1993年に同じく北海道で行われた中同協第25回総会で宣言された「21世紀型中小企業づくり」から30年を迎えます。先人の思いやその原点を振り返りながら、改めてその実現をめざしてまいります。



2023年度道研は、10月7日に道北あさひかわ支部で開かれる

● 2023年度支部活動方針

札幌支部

■スローガン

未来への一步を踏み出し、次の一手を！

～「人を生かす経営」の浸透を深め、実践を広げよう～

予想だにしない経営環境の変化の中、札幌支部では「人を生かす経営」の実践を合言葉に激動を乗り越えるために強靱でしなやかさを持った企業づくりを進めてきた。円安・エネルギー問題・物価高騰など厳しい状況は続いているが、コロナ感染への対応は「経済を回す」という新たな局面を迎えている。

2023年度の札幌支部では会員同士の学びや交流をさらに活発化し、ここ数年で失ったものを取り戻すための「一歩」、更なる発展への「一歩」を確実に踏み出すと共に今後も続く経営環境の変化を乗り越える「一手」を打てるよう「人を生かす経営」を実践していきたい。

また支部の活動や財政問題などに対し現状を見直し、問題を解決するための「一手」を検討し、未来を見据えた支部づくりへの「一歩」を進めたい。

■活動方針

〈経営指針を実践する企業づくり〉

同友会運動の中心となる経営指針の実践は気候変動・国際情勢・政策などの外部要因の変化に対して企業を存続させるための文字通り指針となるものである。我々会

員の経営実践を学び合うことで労使見解に基づく採用・教育を一体とした企業づくりの推進を進めよう。

新たに策定された企業変革支援プログラム Ver.2の普及と活用を進め、事業定義の見直し・再構築を図ろう。

〈人を生かす経営を基にした経営環境改善・地域づくり〉

経営環境の変化に対応するとともに事業継続の取り組みを強化し、「働きやすい環境づくり」を進めよう。

人材育成を推進し、社員が自主性や創造力を発揮できる魅力ある企業づくりの実践で地域を支える中小企業として中小企業の魅力を発信しよう。

〈3つの目的の実現を目指す仲間づくり・同友会づくり〉

会員同士がより深く知り合い、同友会らしい学びのできる例会づくりに取り組みよう。そして地区会のみならず、各委員会、各部会の理解を深め互いに交流し魅力ある同友会づくりを進めよう。

支部例会、オープン例会の開催により活発な仲間づくりを進めよう。

しりべし・小樽支部

■スローガン

激動の時代こそ、共に学び、共に語り、共に挑戦し、次代に続く企業づくりに取り組みよう！

【企業づくり】

- ① 社員教育と求人活動で持続可能な企業づくりに取り組みます
- ② 会員各社が経営指針（経営理念・10年ビジョン・経営方針・経営計画）の成文化と実践に取り組みます

【地域づくり・経営環境づくり】

- ① 中小企業振興基本条例制定運動ならびに、条例を活かした地域振興を目指します
- ② 他団体や産学官金との連携を深め、持続可能な企業

づくり・地域づくりを目指します

【同友会づくり】

- ① 支部会員の実践報告を軸に、グループ討論を通して経営者同士の経験交流から学びを深める例会を開催します
- ② 広域連携で共に成長していける仲間づくりに取り組みます。また、2023年度338名会員を達成し、地域における存在感を高めます
- ③ 支部設立50周年記念事業を成功させます

南空知支部

- 『同友会理念』 第一に 「同友会の三つの目的」
第二に 「自主・民主・連帯の精神」
第三に 「国民や地域とともに歩む中小企業をめざす」

『同友会理念』を活動の大原則として、2023年度は以下の方針で支部活動を進めます。

1. 経営課題の解決につながる支部活動を進め、持続可能な企業づくり・地域づくりに取り組む

①支部活動

- ・委員会が中心となり、会員のニーズに即した経営課題の解決につながる例会を企画運営し、持続可能な企業づくり・地域づくりを進める。
- ・地域を支える中小企業として、事業継続の取り組みを強化し中小企業の魅力を発信する。
- ・オープン例会を開催し、地域や非会員との交流の機会を増やす。

②委員会、小グループ活動

- ・様々な企画を通して、一般会員を巻き込んだ活動を行い会員同士のつながりを強める。

③幹事会

- ・幹事一人一人が自身の役割を理解し、支部活性化につながる活動を行う。
- ・会員同士がより深く知り合い同友会らしい学びのできる例会づくりに取り組み、魅力ある同友会づくりを進める。

2. 南空知モデルの同友会活動を実践し、持続可能な支部づくりに取り組む

- ①「同友会理念」を学び、実践する。
- ②全国・全道行事を含めた積極的な同友会活動を行う。
- ③中長期的な視点での地域に根ざした同友会活動を実践する。
- ④若手経営者向けの企画や会員企業を巻き込んだ活動の実施。
- ⑤小規模支部のメリットを生かした活動を通じ、会員同士の交流を深める。
- ⑥関係団体ならびに他支部との交流・連携を強化する。

とかち支部

■スローガン

学び合いと実践を通じて、持続可能な企業・地域をつくろう

■重点方針

1. 経営指針の成文化と見直しによって、全社一丸経営を目指そう

会員の誰もがやさしく取り組める経営指針づくりをアシスト。経営指針成文化、見直しを通じて、共育、求人、マーケティング、働く環境の改善につなげよう。

2. SDGs と DX を採り入れ、自社の企業価値を高めよう

SDGs への取り組みを通じて、社会課題解決型の企業を目指そう。デジタルスキルを高め、生産性の向上やイノベーション、業態変革を実現しよう。

3. さまざまな事業者、団体と連携し、地域の発展に貢献しよう

とかち支部会員間だけでなく、他の経済団体や官公庁等と連携しながら、持続的に発展する十勝・北海道をつくろう。

4. 会員同士の学びあい、実践を通して、1,000名の仲間を迎えよう

意欲的に学び、実践し、地域の発展に貢献する仲間を増やすため、支部活動の魅力度を高めながら、会員増強に努めよう。

くしろ支部

企業づくり（会員企業が）

- ・経営指針成文化運動の推進
- ・効果的な求人・共有活動と採用できる企業づくり
- ・心身ともに健康な企業づくり

経営環境の改善と地域づくり（地域企業のための）

- ・地域（根釧、道東、広域）の強みをより強く
- ・行政、各機関との連携
- ・BCP、SDGs に対する活動

同友会づくり（くしろ支部として）

- ・会員の役に立つ（に寄り添う）組織づくりと運営
- ・会員どうしを繋ぐ機能を強化する
- ・会員数〇社を目指す



【方針】

<企業づくり>

- ・経営指針成文化運動の促進と実践を続け、企業体質の強化に取り組もう
- ・採用、教育、定着できる企業体制をつくり、人を生かす経営を進めよう

<地域づくり>

- ・中小企業振興基本条例を改めて学びなおし、他団体との連携を通して豊かな地域づくりを目指そう
- ・根釧の優位性を再確認し、会員企業間の連携を広めよう

<同友会づくり>

- ・同友会の仲間づくりを根釧の地に根付かせよう
- ・会員と事務局が共に学びあい会員に寄り添う支部づくりを進めよう

オホーツク支部

■スローガン

コロナ禍を乗り越え、新しいオホーツクを中小企業家の手で作り上げよう

<企業づくり>

- ・経営指針成文化と労働環境改善で人を生かす経営を実践し、誰もが魅力を感じる企業を目指そう
- ・事業継続と雇用の維持を最優先に、持続可能な企業づくりに取り組もう
- ・新時代の経営環境に対応できる柔軟な企業づくりに取り組もう

<地域づくり>

- ・オホーツクビジョンを普及させ、幸福度の高い持続可能な地域社会を目指そう

- ・産学官金の連携を促し、新たなビジネスの創造に繋げよう
- ・人材確保と育成を進める共同求人活動を地域と連携して推進しよう

<同友会づくり>

- ・会員は辞書の1ページ、仲間づくりの輪を広げ、連携や共育の土壌を広げよう
- ・支部、地区会、委員会、部会が担当する例会の充実を図ろう
- ・経営者同士の経験交流から学んだことを自社で実践し成果に繋げ、会内外に積極的に発信していこう

道北あさひかわ

■ 2023年度スローガン
企業づくり、地域づくり、未来づくりを仲間と共に

■ 支部方針

- ・道北あさひかわ支部らしい充実した例会づくりに取り組もう
- ・新しい仲間を迎え入れ、会勢 700 社を目指そう
- ・地区会、委員会、部会の活動を活発にしよう
- ・みんなのチカラで道研 in 旭川を成功させよう

開催日：2023年10月7日（土）午後／1日開催

スローガン：『～新時代を共に創ろう～ ASAHIKAWA MEETING』

< 7つの重点取組 >

1. 退会者の減少、入会者の増加について
増強運動、地区会活動の充実、会員フォロー（定期訪問）に取り組む。
2. 例会参加者数の増加について
ニーズ、時代に合った内容の検討、告知・コピーライティングの工夫、幹事が参加したいと思う例会を更に増やす。
3. 地区会・委員会・部会の活動を更なる活性について
相互の情報共有、共同開催、新会員のフォロー、会員企業にスポットライトを当てる。
会員訪問や企業訪問例会を行う。
4. コロナで増えたご無沙汰会員の減少について
積極的な声掛け。交流会（懇親会）、イベントの開催を検討する。
5. 先輩経営者の参加の増加について
先輩経営者に学ぶ例会の開催。部会の設立を検討する。
6. 同友会理念が幹事・会員への更なる浸透・熱量の増加について
幹事勉強会の実施。同友会の活用をテーマとする取り組みを強化する。
7. 多様化した経営環境において多様化した経営課題の解消について
専門委員会が中心となって取り組む。

《専門委員会方針》

『経営指針委員会』

- ・経営指針研究会を通して研究生も委員もより深く学べる環境を作る。
- ・他支部との連携を通し、固定観念にとらわれない委員会運営をする。

『共同求人委員会』

若者に中小企業で働く魅力を伝え、合同企業説明会などでマッチングを行う新卒採用はもとより、Uターンなどの中途・パート・外国人の雇用についての研究と実践を行う。

1. 学校、行政、他団体、他委員会と連携し、優秀な人材

確保と育成を目指す共同求人活動を創造的に進める。

2. 在学中から若者に働く意義や中小企業の魅力を伝え、合同企業説明会などでマッチングを行う。
3. 新卒採用はもとより、UIJ ターンなどの中途・パート・外国人の雇用についての研究と実践を行う。

『共育委員会』

経営者が社員と「共に学び一歩前進」できる共育活動をめざす

会員・社員同士の教育に貢献し、コミュニケーションの場を提供します。

『具体的取り組み』

- ・営業社員向けセミナー
- ・新入社員フォローアップ研修会・若手社員フォローアップ

ブ研修会

- ・幹部社員・幹部候補生“共有”講座

『経営労務委員会』

中同協が提唱する「中小企業における労使関係の見解」(略称「労使見解」)を基本に、経営・労働・厚生課題の研究と学習を進める。

『障がい者就労委員会』

1. 委員会で障がい者の就労に関わる問題と「人が生きる経営」について学び合います。
2. 道北旭川地域の中小企業、福祉施設、養護学校、行政等が共に学び合い、障がい者の就労の機会を創設します。
3. 会員企業が障がい者の就労に関心を持ってもらえるよう、底上げし会員全体に広がっていきます。

『政策委員会』

- ・良い経営環境を確立するため、中小企業振興基本条例の制定拡大に取り組みます。
- ・物価上昇や資金繰りに直面する企業経営を支える、新たな金融制度等の学習会や、金融機関との連携活動を進めます。
- ・中小企業の税制、エネルギーシフトを取り上げる活動に取り組みます。
- ・コロナ禍に直面する企業経営、地域づくりの支援を強化するため、市町村長等に対する政策提言活動に取り組みます。
- ・2022年度施行される各選挙立候補者に対して、中小企業の振興、条例制定の必要性に関する考えを問う質問状を送付する取組を進めます。

《部会方針》

『女性部野の花の会』

- ①女性の感性を生かし、経営力を身に着け、成長と発展をめざす活動を致します。
- ②学び合い、尊重しあい、会員相互や地域とのつながりを積極的に広げる活動を致します。
- ③時代の変化に柔軟な対応力で、多彩なアイデアを創造し共に実践致します。

『青年部あらぐさ会』

「Hungry Pride！」

- ・「収益」に関する学び
- ・1つの目的を重点に置き、自社にも取り組める学びを中心に行い、今後のあらぐさ会の活動に生きる例会を企画します。また、グループディスカッションを行うことで学んだ内容をアウトプットする場を設けます。

- ・会員の増強と会員間の絆を深める

- ・本音で語り合える青年部の仲間を増やし、多くの会員と交流し、会員に還元できるような例会を企画します。
- ・全道の同友会会員との交流
- ・他支部との交流と学びを深めるために積極的な活動を行います。

『農業部会』

「新たなモノづくり、ヒトづくりに挑戦しよう！」

〈具体的な活動予定〉

- ・商品開発や販路開拓、農業経営について学ぶ例会
- ・現場で学ぶ農場訪問例会
- ・実践に学ぶ国内外研修
- ・異業種や他団体との連携、交流
- ・雇用創出につながる取り組み

『IT・DX 戦略部会』

- ・DXを実行して会員企業の「商品」「サービス」に対して付加価値創出に寄与する。
- ・DXを実行して会員企業の「業務」に対して生産性向上に寄与する。
- ・DXを実行して会員企業の「組織」「人材」に対して育成に寄与する。
- ・会員企業の連携を図り、ITコストの削減に寄与する。
- ・全国の会員企業を結ぶプラットフォームを構築し、会員企業の発展に寄与する。

『旭川まちづくり部会』

当面はこれまで政策委員会内で取り組んできた①行政との懇談会、②旭川信金との連携、③旭川大学の公立化、④インバウンド対策、⑤デザイン経営、⑥企業誘致との連携などに取り組みつつ、皆様のアイデアやご意見に基づく活動を進めます。

《地区会方針》

『宗谷地区会』

1. 同友会3つの目的(よい会社・よい経営者・よい経営環境)実現に向けて、学び合い・援け合う活動をします。
2. 道北あさひかわ支部や他地区会の活動に学ぶと共に、地域内外の会員や各団体と連携し、地域の活性、発展につながる活動を展開します。
3. 会員交流を通じた学びと繋がりを活かす、積極的に常に新鮮な活動に取り組みます。
4. 同友会の魅力を地域内外に発信し、学び合う新しい仲間を増やします。

《重点》

- ・会員企業の課題解決につながる活動に取り組みます。

- ・金融機関や各種団体等と連携し、積極的な地域・経済の活性化に取り組みます。
- ・地元経済に深くかかわりあるサハリン貿易の具現化、観光産業を促進する活動に取り組みます。
- ・管内における中小企業振興基本条例の制定および進化に取り組みます。

『羽幌地区会』

- ・同友会3つの目的（よい会社・よい経営者・よい経営環境づくり）実現に向けた学び合い活動と共に、地域経済活性化に向けた議論を進めます。
- ・道北あさひかわ支部や他地区会の活動に学ぶと共に、行政や各団体と連携した活動を進めます。
- ・同友会の魅力を地域内外に発信し、学び合う新しい仲間を増やします。
- ・視察研修を通じて、新たな学びを探索します。
- ・羽幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略を効果的に活用し、地域の課題解決に取り組みます。

『留萌地区会』

- 一、同友会3つの目的（よい会社・よい経営者・よい経営環境づくり）実現に向けて、学び合い、企業活動を進めます。
 - 一、道北あさひかわ支部や他地区会の活動に学ぶと共に、行政や各団体と連携し、活動を進めます。
 - 一、同友会の魅力を地域内に発信し、学び合う新しい仲間を増やします。
 - 一、地区間交流を図り、新たな繋がりと魅力を見出します。
 - 一、留萌市中小企業振興基本条例に参画します。
- 留萌地区会は志を共にするメンバーたちと、2025年の発会40周年を40社で迎えます。

『空知中央地区会』

『躍動』

1. 同友会3つの目的「よい会社・よい経営者・よい経営環境づくり」を具体的に掘り下げ各社・各業界の実践例からヒントをつかみ、謙虚に学びあって参りましょう。
2. おれない企業づくりのためには経営指針（理念・方針・計画）が不可欠です。経営指針の成文化と実践の活動に取り組みましょう。
3. 行政や他団体と連携し、中小企業憲章・中小企業振興条例の制定・見直しの学習を進めましょう。そして地域経済活性化に向けてアイデアを出し合い、活力ある空知中央エリアづくりを目指しましょう。
4. 他県・他支部・他地区会との交流を広げ、優れた経営体験に学びましょう。
5. 経営者と社員は企業と地域を支えるパートナーです。

社員の皆さんにも参加して頂き、共に学び合える企画も開催して参りましょう。

6. 同友会の学びの輪を地域に広げ、新会員を絶えず迎え、地域と企業の活性化を目指しましょう。

『空知中央西地区会』

1. 時代、地域、会員のニーズに応えた例会の構築を図り、地域の発展と会員企業の強みを発揮できる活動を行います。
2. 中空知管内の大学・高等学校、自治体等関連機関と連携し、会員をはじめとする地域企業の新卒採用の一助となる事業を行います。
3. 支部及び地方地区会との情報交換を密にし、地区会活動の活性化を図ります。
4. 時代に合った（社会環境）他地区会との合同例会を企画し、他地区会会員との交流を深める活動を行います。
5. 楽しみながら学び、会員同士の交流を深める活動を行います。

『富良野地区会』

『会員同士の絆を深め、地域とともに強い会社を作ろう！』

1. 同友会理念の基礎を固め、よい会社、よい経営者、よい経営環境づくりを実践しよう。
2. 会員同士の学びあいを深め、知り合いから、本音で話せる仲間を作ろう。
3. 社員と共に学び、人を生かす経営を実践しよう。
4. 富良野地区会の強みを生かし、全国に誇れる地区会にしよう。
5. 新会員を増やし、新しい風を入れよう。

『旭川北地区会』

会員相互の親睦を深め、例会参加者数と入会員の増加、退会防止を目指す。

方針

- ・コロナの状況を見極めながら、地区内外の会員と親睦交流を図る例会を開催する。
- ・コロナ感染防止を念頭に、会員訪問や連絡網を活用した交流活動に取り組む。
- ・ベテラン経営者や先輩会員等を講師とした経営に役立つセミナーを開催する。

『旭川東地区会』

- ・学びと会員交流の充実を図り、会員同士助け合いながら会員企業の存続とさらなる発展を目指す。
- ・地区例会は会員の課題解決、助け合いを念頭に、身近に役立つ学びを行う。
- ・会員交流リアル開催にも力を入れ、新会員増強と脱会

員ゼロを目指す。

- ・困難な経済情勢に立ち向かうため、様々な問題を解決出来るよう会員同士助け合う。

『旭川西地区会』

- ・市内地区会方針を活動の基とし、会員間の交流を深める場にする
- ・新会員の居場所作り、0-1会員の解消、重点的に0会員をなくす取組をする。

- ・世話人の負担軽減、ビジネスのヒントを得られる活動にする。
- ・委員会と情報共有、支部とのつながりを深くする。

『旭川南地区会』

- ・存在意義のある地区会に
- 1. 学びの場を作る
- 2. 気づきを得られる場を作る
- 3. 人脈を構築する場を作る

函館支部

■ 2024年までの中期スローガン

「同友会 入って会社がよくなった！」

～中小企業家同友会での学びの実践で良い環境をつくろう～

■ 2025年ビジョン

会員の「なりたい」「したい」を実現できる会を目指します

■ 2023年度スローガン

学びの実践と成果を語り合い良い環境につなげよう

活動方針

1. より多くの人とかかわれる環境をつくろう
2. 会活動での学びを実践できる流れをつくろう
3. 個人が生かされ意欲的に参加できる場をつくろう
4. 地域の新たな仕事づくりに携われるきっかけをつくろう

活動の背景

2020年の新型コロナウイルス感染拡大による自粛の影響から、世界各国の産業が窮地に追いやられています。函館においても基幹産業となっている水産業や観光業に

大きなダメージを与えていますが、このような状況だからこそ多くの強みを持っている道南は変化を遂げることで飛躍のチャンスがあると信じています。仕事について学び実践する同友会らしく、学びを通じ会員の新たな仕事づくりや変化した環境に対応できるような下支えを行いたいです。

また、2019年北海道同友会創立50周年において全道6,000名の会員を目指し達成されましたが、新型コロナウイルスの影響もあり函館支部は会員数が減少しています。会の維持と振興を考えるのであれば会員拡大は不可欠ではありますが、もともと参加率の低さが問題視されていたことを踏まえ、まずは会員が活動に参加したくなる場として、より実践へ落とし込める学びを提供します。その満足度の高い学びは、会員が主体的に非会員へ入会を勧めていく仕組みにつながると考えます。幹事など運営側の成長機会を増やし、会員皆が同友会を活かせるような場を整えることで、入ってよかった同友会と感じていただきたいです。

苦小牧支部

■ 2023 年度スローガン

「キヅキ」から考動へ 多様で新しい付加価値の創造と相互理解で深まる未来の「カタチ」

コロナ災害がもたらせた新たな変化

新型コロナウイルス感染症が収まりつつある現在、気候変動や自然災害、少子高齢化による人口減少、ウクライナ侵攻や台湾侵攻の脅威が顕在化するなど、私たちを取り巻く環境には様々な課題が有り、ビジネスにおけるグローバル化や、Society5.0に代表される社会全体での超デジタル化・深化が進む中で、急速な需要と供給バランスが崩れることによる大企業の撤退あるいは事業規模縮小、他業態への移行が進み、中小企業の経営環境は更に厳しく、正にVUCA時代真つただ中のように感じます。

これから近いうちに実現されていく世界では、場所・時間・状態を問わず働くことができたり、バーチャル空間で臨場感のある娯楽やショッピングを楽しめたり、オートモビリティで人や物が運搬されたり、言語の壁を超えたコミュニケーションができたりと、今以上にワクワクする社会が実現していく一方、銀行員、警備員、建築作業員、スーパー・コンビニのレジ店員、受付係、配達員、タクシー・バスドライバー、工場作業員等は、AIに代替され10年以内に仕事がなくなる可能性が高いと言われており、私たちは、正しい未来予測をもとにこれからの仕事や事業の在り方を真剣に考えなければいけない時代が既に目の前にあることを認識しなければなりません。

その上で、これからの中小企業経営者が生き残るために必要な学びは、「企業は、変化する社会のあり方に対応する必要がある」ということを念頭に置き、同友会での学びの他、公的支援や士業等専門職からの学びを最大限活用した中で、資源としての「人・モノ・技術や手法・情報」をどのように運用していくべきかを社員と共有し、「モノ（商品やサービス）の所有から、商品のサービスを購入することで得られるコト（体験や経験）に価値を持つ時代」に対応した新たな付加価値を創造するために、多様化と包括化した産業構造への対応を考えながら従前の事業定義や業務フローを見直し経営実践していくことだと思えます。

今後の時代のトレンドは、個人が求める日常生活の実現や幸福（数年後に個人の価値を最大化すること）にあると考えます。「豊かな生活を送るための所得向上や企業の利益増加」、「環境の保全や気候変動・災害対応」、「安全の確保やワクチン・社会保障」、「産業や雇用の新陳代謝による雇用の安定」、「持続可能な地域の経済・文化の維持発展」、「心身ともに広義の健康の実現」など、これ

らの取り組みが新たなビジネスチャンスのカギとなっていくと考えます。

支部活動の新たなねらい

現状を踏まえた中で、本年度の支部活動で重要なことは、今できることを一つひとつ考え行動していくことです。事務局による会員訪問やアンケート等で会員のニーズを引き出し、内在する同友会の持つ魅力を広く発信し、会員がもっと「同友会を活用することができる」ことを知っていただくと共に、参加して楽しい、為になる会を皆さんと共に運営していきたいと思えます。

また、コロナ禍において、デジタル情報過多で人との関係性が希薄になっている現状では、当事者意識と他者理解を育むことが何よりも肝要だと感じます。是か非かではなく話し合いの機会を作り、相手の立場になり考え寄り添う。一歩前へ出ることで変わる関係性を生み出しましょう。同じように大切にすべきことは「挑戦」することで、一番恐ろしいことは「現状維持」で何も変えないこと。そして、新しいモノを生み出すために「他に託す」ことも必要です。例えば「チャレンジして失敗した社員は褒める。その背中を押す促しが社員の次の成功につながる。」といった「相手に感謝し、褒める文化」の醸成は経営理念の浸透にもつながります。人とのつながりと思いやりをもって信頼型社会を形成していきましょう。

支部委員会活動の充実

支部活動の推進の一役を担うのは専門委員会です。本年度も各委員会の担いを明確にして同友会活動を発信していきます。まずは「企業づくり」として、経営指針推進委員会には、経営指針の成文化と実践を支部会員に広げるための活動と第15期経営指針研究会の運営をお願いします。また、経営厚生労働委員会には、社員や求職者に成長と安心を与えられる企業の事業継続、厚生労働の在り方を提示するために、事業継続課題、厚生労働課題の解決に向けた委員会内学習会の開催及びセミナーの企画運営をお願いします。続いて、共育委員会には、経営者と社員が深く理解し合える「共育ち」の学びを深めるために、社員を対象にした研修会の開催や全道で企画している社員教育研修会の発信と積極的な参加推進をお願いします。また、共同求人委員会には、求職者が入社

したくなるような魅力ある企業になるために、地元の教育機関や学校訪問及び、学校の就職担当者を迎えた意見交換会、地元中小企業経営者・経営幹部による学生との懇談会の実施や、求職者が入社したくなるような企業づくりについて学び合いをお願いします。さらに、総務ICT委員会には、会員企業とデジタル弱者の経営者が将来困らないため、また、苫小牧支部の総務運営の円滑化のためにデジタル媒体を活用した会員企業の業務効率化、企業の生産性向上へ向けたBPR・BPO等のセミナーの企画運営と・ホームページ、SNSなどの有効活用の検討をお願いします。

二つ目にく経営環境の改善と地域づくり>において、政策委員会には、行政および他団体との連携による地域活性化のため、地域の特色や独自性を生かした中小企業振興のために苫小牧市中小企業振興審議会の活用と理解を深める勉強会の開催や、中小企業振興条例の先進地の実践から学ぶ機会の創出、よろず相談所の運営と類似機関の活用をお願いします。また、食と観光部会には、学生や別団体との繋がることで新たなアイデアやイノベーションが生まれる「だべり場」の開催や、近隣の街を知り、普段会えない人々との交流の中から自分たちの地域のポテンシャルを再発見することで生まれる広域連携や新商品開発の可能性を探るための東胆振・日高研修ツアーの開催をお願いします。

三つ目にく同友会づくり>として、組織・企画委員会には、地域の中小企業経営者・個人事業主を守り地域の経営者を仲間にするために、組織率7%（292名）を目指した会員訪問と非会員情報の収集や、会員の相互理解を深めるための交流事業の企画運営をお願いします。また、シニア会である大和会には、企業と同友会運動の発展に貢献した会員による体験談を聴く学びの場の創出と同世

代会員交流をお願いし、加えて、青年部である友知会、女性部会には、全国・全道で活躍する若手経営者や女性経営者から学ぶ機会の創出、また、その魅力の発信をお願いします。

むすびに

理想とする苫小牧支部には、やはり会員が参加するにあたり「ドキドキ・ワクワクする楽しい会であるかどうか」という要素が必要だと思います。そして楽しい会であるためには、信頼しあえる会員になるための他者理解や相互理解が必要ですし、それは、お互いを知ることから始まります。コロナ禍で中々会えず、説明もままならない中で、齟齬が生じ誤解が生まれたこともあったかもしれませんが、今後、「多くの会員とふれあう機会」を提供して、会員の悩み、同友会の理解、事務局との関係性、会社の展望、地域の未来、いろいろな事をみんなで話せるようにしていきたいと考えています。会員の皆様におかれましては、積極的な委員会、部会、例会、事業への参加と発言をお願いします。

【苫小牧支部 10年ビジョン】

- ・強靱な経営体質の向上につながる「共学・共育・共生」の企業づくりを実践
- ・持続可能な地域の創造に寄与する産学官金との連携
- ・時代に必要な知識と意識の醸成に結びつく委員会・部会の創設
- ・力強い同友会運動の推進につながる新たな「仲間づくり」の実践

(40周年記念式典にて発表 2018.1.23)

西胆振支部

■スローガン

『時代は想像を超える今を創り、経営者は未来を創造することができる。』

～同友会には会員の数×3倍のチャンスがある～ ver2』

①企業づくり

～経営者としての資質を高め、企業の発展を進める～

- ・同友会のネットワークを活用し、チャンスを生みだせる交流、経営課題の解決など会員としてのメリットの共有による会員企業の発展
- ・現在よりも良い経営のため、働き方改革をはじめとする雇用環境の向上、人口減少時代での「人を生かす経営」の実践

- ・会社、経営者の力の向上につながる経営指針の成文化・実践により、全社一丸となった企業づくり

②地域づくり・経営環境づくり

～自社・地域の発展をひろげる～

- ・中小企業憲章の精神を再確認し、各自自治体において「中小企業振興基本条例を地域づくり・地域再生に活かしていく」という基本的理解を広める
- ・「西いぶり連携協定」や「アグリチャレンジ」など金融

機関をはじめ他団体、会員企業との連携を模索し、会員各社の可能性を広げ、地域経済の活性化により地域づくりに寄与する

③同友会づくり

～頼れる同友会、可能性の広がる同友会へ～

- ・支部や全道、全国の様々な経営実践・会員企業同士のコラボレーションから自社の可能性を広げることができると同友会活動を周知、展開する

- ・4 地区部会（室蘭、登別、伊達、農経）がそれぞれ例会を担当し、各地区部会を開催する中で広く意見を吸い上げ、各部会担当幹事が幹事会で上程することでより活発な幹事会、同友会活動を進め、会員が同友会を活用できる機会を広げる
- ・全道、全国行事に積極的に参加、他支部との連携により、支部活動の更なる発展につなげ、会員への還元率の向上を目指します

● 2023年度専門委員会活動方針(案)

組織・企画委員会

スローガン：StepUp5850

- ①2023年度は2024年度6000名会員達成へ土台となる重要な年度。全支部が一丸となって「StepUp5850」をやり遂げよう。
- ②組織・企画委員会の経験交流や学び合いを発展させ、支部間の活動と交流の活発化を図り、支部長・支部役員のサポートを強化しよう。
- ③同友会を知ってもらい、仲間になってもらうために、会合へのゲスト参加を進めよう。

経営指針委員会

「同友会は経営指針をつくって経営を学ぶ会」をベースに活動

- ・北海道同友会の全道委員として、経営指針成文化を推進し研究会を活性化させよう
- ・経営指針の実践や見直しに『企業変革支援プログラム Ver.2』の活用を推進し、登録件数100件をめざそう
- ・全国・全道行事に積極的に参加し、学びの質を高めよう
- ・労使見解をもとに人を生かす経営を実践し、黒字企業をめざそう

〔活動計画〕

- ・経営指針研究会の進め方等の情報を共有する
- ・研究会の単独開催が難しい支部に対するサポート体制

の検討を行う

- ・広域により研究会参加が出来ない会員に対するサポートの検討を行う
- ・全道経営指針研修会 in くしろを開催する
- ・第38回全道経営者“共有”研究集会 in 旭川の分科会設営を担当する
- ・『企業変革支援プログラム Ver.2』の委員会内学習会の開催する
- ・『企業変革支援プログラム』のe.doyu登録数100件をめざし、全道、ブロック、支部と幅広く登録を促す仕組みづくりに取り組む
- ・経営指針成文化、実践に関するアンケートの実施する
- ・他の全道専門委員会の学びの場へ参加し、人を生かす経営を学び実践する

活動のまとめ

情勢

活動方針(案)

決算書、予算(案)

資料

諸規程

共同求人委員会

①共同求人活動の理念を広げ「人を生かす経営」を踏まえた企業づくりを広めよう

同友会の3つの目的の一つ「良い会社をつくる」を達成するための一つの軸として、三位一体（経営指針、共有、共同求人）としての共同求人の方（理念）の理解を、各支部の共同求人委員会に広げていく。

また「自社の不足に気づき直す」といった、共同求人から見る「人を生かす経営」を実践する企業の輪を広げる事で、運動としての社会共有活動の波及をめざしていく。

②各支部での学びやノウハウを全道で共有し共同求人品質を確立しよう

支部において、過去からの学びの蓄積や、現在行なっている学びを深める活動を全道各支部委員会とも共有し、各地域で抱えている課題や問題を解決するきっかけづくりの幅を広げていく。また、学びからの実践を重ね、求職者から「どういう生き方をしたいのか」で選んでもら

える「共同求人品質」を全道一丸となって確立していく。

③若者に地域で働く意義を伝え、地域や学校から信頼を得られる運動を深めよう

いかにして若者が地域に残り、企業と共に育ちあえる持続可能な地域を作っていくのかという展望に立ち、学校の先生や教職員の方々、関連する機関の方々、そして若者との対話の機会を増やし、同友会企業の社会的認知度の向上に努める活動を広げていく

【これらを各企業が実践する先に得られるものは】

「良い会社」

として

「社会から信頼される経営者自身」

と

「社員さんの生きがい・やりがい」

です！

共育委員会

1. 「2022年札幌道研」の分科会で報告した「全道共育委員会の活動のまとめ」を活用し、「同友会型企業経営の学び」を全道各支部で展開します。
2. 各企業における社員共育計画づくり運動を推進します。
3. 全道社員共育セミナーの年間コースを普及・推進します。

4. 2023年10月に開催される「あさひかわ道研」の担当分科会で、企業が直面する退職と採用・人材難の中で進める人を生かす仕組みづくり・チームの再構築等をテーマとして取り上げ、会員企業の再生・発展を促進します。

経営厚生労働委員会

2023年度 活動方針

同友会がめざす21世紀型中小企業の原点となる中同協「労使見解」を基本に、全道の中小企業が直面する“事業継続課題”・“厚生課題”・“労働課題”の学習及び問題解決への企画及び立案を目的とします。また、上記の目的を達成するために、他の専門委員会との連携強化を推進していきます。

“事業継続課題”……次世代へ事業を継続・発展させるための課題

“厚生課題”……経営者と従業員の健康で豊かな生活を送るための課題

“労働課題”……従業員の雇用および労働環境に関わる課題

2023年度 活動計画

1. 働く環境づくりを推進する

「働く環境づくりの手引き」の委員会内勉強会を開く他、各支部での啓蒙も行います。あわせて就業規則作成・見直しを全道的に広めます。

2. 各委員会と連携し「人を生かす経営」を学ぶ合同学習会を開く

「人を生かす経営」の合同学習会を通して、共に学び合う機会をつくります。

3. 厚生課題を積極的に取り組む

健康経営や、メンタルヘルスなど厚生課題についての学習会を全道に広げ、社員が健康的で働きやすい環境づくりを広げます。

4. 事業承継問題に継続的に関わる

事業承継窓口「つなげる」と共に、事業承継問題の最新情報や事例を学ぶ機会をつくります。また、全道

各支部に情報発信を通じて、課題や解決方法の共有を図ります。

5. 旭川道研の分科会を設営する

「働く環境づくり」や「人を生かす経営」をテーマに分科会を設営し、自社の経営課題について深く学び合う機会をつくります。

障害者問題委員会

1. 障がい者や、社会的弱者等が置かれた問題について「人が生きる経営」の視点で学び合います。

行動目標：委員会内学習会の企画等

2. 各支部委員会と情報共有し、支部横断的に学習会等に参加するなど交流を広げ、全支部が繋がる活動を進めます。

行動目標：全道の情報共有の仕組みの確立と、全支部での委員会設置をめざします。

3. 中同協や全国の活動事例を参考に、各支部が地域の関係機関と連携した活動づくりを広げます。

行動目標：各支部が地域の行政を始めとする関係機関と連携し、その経験や事例を各支部委員会と共有する。

4. 障がい者等社会的弱者に関わる問題を切り口とし、「人が生きる経営」の実践を広げます。

行動目標：全道オープン例会の開催

政策委員会

目的：「良い経営環境をつくる」

中期活動指針

- ①中小企業基本法及び中小企業憲章の理念を広め、他団体とも連携し中小企業振興基本条例の制定の動きを加速します。
- ②中小企業を取り巻く時代・環境変化を踏まえた中小企業政策のあり方を検証します。
- ③持続可能な地域をめざし、SDGs など関連する学びを進め実践につなげます。

活動の力点：

「中小企業振興基本条例の制定を推進します」

活動方針

- ①持続可能な地域の実現のために、条例制定への取り組みを推進します。

- ②中小企業を取り巻く環境変化を踏まえ、金融制度や税制の変化と中小企業経営への影響を検証・提起する学びの場を創出します。

活動指針

- ・条例未制定自治体への働きかけを進めるとともに制定自治体においては「条例」を活用した地域づくりの実践を進めます。
- ・条例の目的と意義をわかりやすく説明した「条例リーフレット」を作成し、会員ならびに行政、関係機関における条例への理解を深めます。
- また、あさひかわ道研において「地域振興」をテーマにした分科会を設営し、各支部での持続可能な地域づくり・条例制定運動につなげます。
- ・金融制度や税制に関する学習に取り組みます。